

大阪教育福祉専門学校成績評価基準（令和3年3月改定）

大阪教育福祉専門学校

（学習の評価と GPA の付与基準）

1. 本校では各授業科目の評価は、次の評語によって揭示され、評語は試験の成績、平常の学習状況、出席状況等を総合して決定する。また成績の総合的かつ客観的な基準として、GPA（Grade point Average）を設定し、成績評価に対応して評点を意味する GP（Grade point）を付与する。付与された GP に単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割ることで履修科目の成績評定平均値を意味する GPA を算出する。

評語	秀	優	良	可	不可		単位認定
点数	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	失格	認定
GP	4	3	2	1	0	—	対象外

（総合評価基準）

2. 各授業科目の学習評価は、授業の到達目標の習得度・理解度をもってなされるものとする。また学習評価を多面的に行うために以下の評価基準を設け、教科の特性によりその中から 2 つ以上を選択することで、総合的な評価をおこなう。各授業科目の評価配分や実施時期、内容、方法等については、シラバスの「成績評価の方法」欄に記載する。

時期	内容(例)	実施方法(例)	評価配分(例)		
			①	②	③
授業中	平常点	受講態度、欠席による減点等	10%	30%	30%
	課題	レポート(ノート点検)、提出物等	—	70%	—
	目標到達度、理解度確認	点検チェック、実技等	30%	—	70%
期末	期末試験	筆記試験等	60%	—	—
* 評価の配分合計が100%になるように設定			100%	100%	100%

（注）評価配分(例)は、授業科目の特性により次のように分類している。

- ① 講義を主体とする科目（講義科目、演習主体だが筆記試験での理解度が必要な科目）
- ② 演習を主体とする科目（造形・絵画技法、実習指導等）
- ③ 実技科目（体育、身体活動、レクリエーション活動等）

* ピアノ演奏技術の評価については別に定める。

(GPA の種別と算出方法)

3. GPA は、学期単位の GPA (学期 GPA) と入学時から当該期までの GPA (累積 GPA) に別れ、以下の各区分で定める方法により算出する。(小数点第 2 位以下は切り捨て)

ただし、以下の科目については GPA の算出に含まない。

- ・ 5 段階の評語による成績評価をおこなっていない科目 (教育実習、保育実習、インターンシップ等)
- ・ 本学入学前に修得した単位認定科目

$$\text{学期GPA} = \frac{\text{(当該学期の履修登録科目のGP} \times \text{当該科目の単位数) の総和}}{\text{当該学期の履修総単位数}}$$

$$\text{累積GPA} = \frac{\text{(全期間の履修登録科目のGP} \times \text{当該科目の単位数) の総和}}{\text{在学全期間の履修総単位数}}$$

(再履修した科目の成績)

4. 再履修により単位を修得した授業科目については、再履修によって得た評価と単位を GPA 算定に加えるものとする。但し、当該科目について過去に得た評価及び単位数は GPA から除外しない。

(GPA の通知と活用)

5. GPA は各期における成績表に記載され、各学生の学習成果を把握する指標とするほか、集計・分析することによって学習成果を測定する方法のひとつとする。また成績不振者に対する個別の履修指導に利用するほか、各種申請や表彰等の要件として利用することがある。

GPAの値	評価の平均値	学修での状態
4.0~3.0	「優」～「秀」を平均的に修得	非常に優秀。
2.9~2.0	「秀」～「良」を平均的に修得	問題はないが、学期ごとに下がっている場合には注意が必要。
1.9~1.0	「良」～「可」を平均的に修得	今後の学修姿勢に注意が必要。
0.9~	不合格の割合が多い	学習状況の見直しが必要。

(その他)

6. 成績評価の疑義申し立て期間については、成績表の配布後 2 週間以内とする。また、「評価基準」に関する学生からの質問や疑義には適切に対応する。